

銀賞 熊切真知子君
北海学園大学工学部建築学科 Mesh

都市の中に効率という概念が居据わったために、いろいろな不都合が生まれ、都市を不毛なものに変化させてしまった。表通りには効率という名のビルが並び、その裏には貧相なアパート群が乱立する。その当たり前といえるヒエラルキーの中にほとんどの建物は埋没していく。スラム化が進み、更にもっとその質を下げている。住む人々は何の希望もなく、建築に興味をもたず、文化に触れる事もない。「メッシュ」はある意味でパラドックスであるが、実に重要な提案が秘められている。建築（物質体）と空気が一回クラッシュさせ、ぐちゃぐちゃにして、パッと放り出す。その散らばった状態がメッシュであり、そこには建築の保有する水平性、垂直性、連続性、露地性、ヒエラルキー、透明性、対峙性が全て盛り込まれる。金賞に値する力作である。

（文責：中山 眞琴）